

主体的に運動に取り組み、日常的に運動の楽しさを味わうことのできる子供の育成

～人・家庭・地域と関わり合いながら～

全校児童(生徒)数	244名(男子120名 女子124名)		
全クラス数	11	教職員数	23
運動部活動数		運動部活動参加率	

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、本校児童は「敏捷性」と「持久力」に課題がある。意識調査からは、約2割の児童が体を動かすことや体育の授業を苦手と感じている。

また、教師へのアンケート結果から、一単位時間の指導過程の作成や運動の特性に応じた楽しさを味わわせる指導の在り方等について研究を深め、実践に繋げていく必要がある。

2 取組の目的

- ① 授業の指導過程や指導方法、授業外において児童が日常的に運動に取り組む手立て等を研究・実践し、児童に運動の楽しさを味わわせる。
- ② 学校・家庭・地域が連携し、主体的に運動に取り組む児童を育成する。

取組の内容

1 体育科授業での取組

○ 一単位時間の指導過程の共通理解

- ① 準備運動・わくわくタイム
授業の始めに、主運動につながる基礎的な運動を取り入れる。一斉に同じ運動に取り組んだり、児童が自分の課題を解決するために必要な動きの場を選んで取り組んだりする。
- ② めあてづくり
ICTや掲示資料を活用し、本時の課題に迫り、全体だけでなく個人のめあてを設定する。
- ③ チャレンジⅠ
めあての解決に向けた試しの活動に取り組む。また、ペアやグループで互いの動きを見合いながら、アドバイスをを行う。
- ④ 学びの共有
児童が主体となって課題解決に取り組むことができるように、チャレンジⅠとチャレンジⅡの間に、見つけたコツや困り感を共有する場を設定する。
- ⑤ チャレンジⅡ
学びの共有で明らかになった動きのポイントを意識しながら運動に取り組む。
- ⑥ 学習のまとめ・振り返り
本時の学習の成果や課題を確認する時間を設定し、次時の学習へのつながりを意識させる。

2 教科外体育での取組

(1) 校内環境の整備

「ちょっとしたことでも意識を変えれば運動にな

る」をコンセプトに、校内に運動につながる「しかけ」を施す。自分たちで動きや遊びを工夫し、楽しむ姿が見られた。

(2) 委員会活動の取組

固定遊具を活用した「市来サーキット」を作成し、自分の体力に合ったコースを選択し取り組む。また、昼休みに異学年みんなで遊ぶイベントを実施し、児童に遊ぶ楽しさを味わわせる。体力テスト前には、運動のコツをまとめた掲示物を児童が作成し、目標達成を目指す雰囲気を作る。

3 地域や家庭との連携

(1) 授業での地域人材活用

体づくり運動の授業を中心に、ゲストティーチャーを招き、体の使い方や体を動かす楽しさについて教えてもらう。

(2) 家庭との連携「親子で運動カード」の取組

「かごしまの子ども体力向上プログラム」等を活用し、親子で運動を楽しむ週間を設定し、体を動かす楽しさを味わう働きかけを行う。

●工夫したこと

- ① 器械運動の授業の時期を全学年で合わせ、基本の学習の場を設定することで、準備にかかる時間を減らし、運動時間を確保できるようにした。
- ② 授業の中で、児童同士の学び合いを活性化させるために、ICTの活用や、用具や場に印をつけるなどアドバイスのポイントの見える化を行った。

取組の成果

- ① 6年生の体力合計点は、5年生時と比較して、ABCがそれぞれ増加し、DEが減少した。
- ② 「親子で運動することがほとんどない」という児童が、令和5年度に比べて10.4ポイント減少した。
- ③ 家族と一緒に運動に取り組む機会を設定したことで運動量だけでなく会話する機会も増えた。
- ④ 補助運動や技の系統表を作成したことで、指導者の学年の系統を意識した授業づくりが可能になり、資料が共有でき、準備時間の削減につながった。

今後の課題

- ① 児童が主体的に学習に取り組む授業を実践していく中で、評価方法について更に研究していく必要がある。
- ② 生活習慣の確立など、健康面へのアプローチの在り方を検討する必要がある。
- ③ 運動への多様な関わり方を示し、楽しさにつながる手立てを更に考える必要がある。

1 体育科授業での取組



【指導計画】



【二次元コード付き掲示】



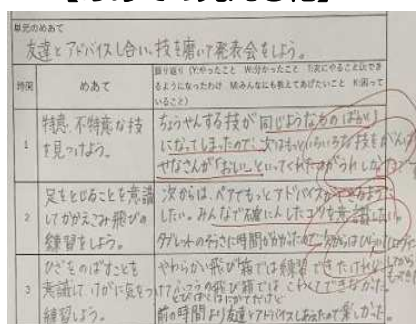
【動きのコツの掲示】



【めあての見える化】



【学び合いの様子】



【ふりかえりカード】

児童が自分の学びを調整したり、友達と助言を伝え合ったりしながら、心身ともに成長していく授業を目指します。

2 教科外体育での取組



【廊下のラダー】



【廊下でジャンプ】



【市来サーキット】

みんなと一緒に遊んだり、目標に向かって活動したりすることで、体を動かす楽しさや喜びを味わえるようにします。

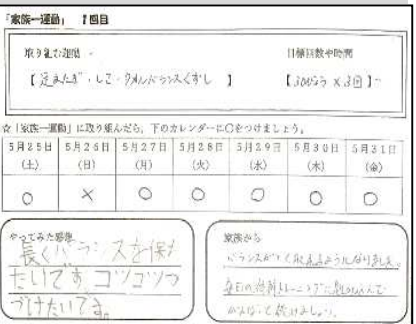
3 地域・家庭との連携



【地域人材活用（ダンス）】



【地域人材活用（持久走大会）】



【親子で運動カード】

体の使い方を学んだり、親子で運動する機会を増やしたりしながら、日常生活の中に運動を取り入れる習慣を身に付けさせていきます。